

# 「アイヌ神謡集・おもしろそうし」 指導上の参考

## 子どもが興味を持つポイント

5年生の社会科の学習で「沖縄」「北海道」の簡単な歴史や風土のちがいを学ぶ。子どもたちは特色ある地域に関心を示すので、文学という視点からのアプローチは、新たな興味を広げるであろう。

## 言語活動の案

まずは、二つの文学をじっくり聴き味わいたい。アイヌと沖縄は、方言や言葉づかい、リズムなど地域独特のものがあるので、番組の朗読をじっくり聴きたい。耳になじんできたら、気になる言葉やフレーズに注目したい。

より理解を深めるために、二つを比較したり、自分の住む地域を入れ、三つで比べたりする。自分の住む地域に伝わる文学も調べたい。地域の方々に取材・インタビューする。実際に朗読や演劇などの表現活動に取り組めるとよい。

## 指導例

### 【学習のねらい】

・「地域に伝わる民話」に関心をもち、鑑賞や調べる活動を通して、独特の表現・世界を楽しむ。

### 【指導の流れ】

・(1)は基本展開、(2)(3)は扱う時間数や子どもの実態によって展開したい。

#### (1)「アイヌ神謡集・おもしろそうし」を楽しむ。

##### <番組視聴をする>

1. 感想を交流する。疑問や興味をもったことを自由に発表する。
  - ・必要に応じて、地図で北海道や沖縄の位置を確認したり、歴史的なことを補足したりする。
  - ・「銀の滴」と「ぬけ上がる三日月や」を比べてもよい。・印象に残った言葉やフレーズをあげる。
2. 「銀の滴」の登場人物や話の大体を知る。
  - ・「貧しい家がお金持ちになったのはなぜか」話の大体や冒頭の言葉(シロコへ〜)の意味を確認。
3. 「ぬけ 上がる三日月や」の歌詞の特徴を知り、イメージを広げる。
  - ・登場するもの(「三日月」「金星」「星」「雲」など)や繰り返しの言葉(「あれ」「ぬけ」)を確認。
4. 番組を再視聴する。番組の音声に合わせて、口ずさむことで、音声表現を楽しむ。



#### (2)自分たちの地域の文学も含めて、疑問や興味をもったことを調べる。

1. アイヌや沖縄の文学のほかに、自分たちの地域に伝わる民話なども加えて、ブックトークを聞く。
  - ・書籍や資料をいくつか用意したい。用意できる範囲でよい。
2. 興味をもった地方の文学について、調べる計画を立てる。
  - ・調べる範囲を「神楽」「お囃子」「民謡」「祭り」などの伝統芸能に広げてもよい。
  - ・テーマについて、情報を集めたり調べたりする方法を見通す。  
(書籍・資料・DVD・インターネットでの調査、関係者への取材やインタビューなど)
3. 調べたことをまとめ、発表する。・朗読や演劇などの発表会にしてもよい。



#### (3)「地域に伝わる文学」の鑑賞会を開く。

1. 自分たちの住んでいる地域に伝わる文学の鑑賞会を開く。
  - ・「学校に招待して実演」「録画して放映」など、実情に合わせて工夫する。
  - ・伝統芸能を調べた場合は、ワークショップ形式で体験をするなど、地域の実情に合った場を工夫する。